

第17回全国大会開催のご挨拶

大会実行委員長 小山 修

アジア経営学会の会員の皆様には、猛暑の中、ご清祥のこととお慶び申し上げます。このたび、9月10日（金）・11日（土）・12日（日）と3日間の日程で、札幌大学において第17回全国大会を開催させて頂ける運びとなり、本学会会長の植竹輝久慶應義塾大学名誉教授をはじめ、常任理事・理事・幹事・会員の皆様に感謝申し上げます。

さて、今大会は、統一論題を「新しい危機と成長の時代のアジア企業経営」として、4名の著名な方々の統一論題報告が行われます。中東や西アジアでの紛争が続く中で、一昨年のリーマンショックを契機として深刻な経済・社会危機が世界を覆い、金融危機の中から、漸く新しい成長への方向が芽吹いたかに思われますが、ヨーロッパではユーロ危機が懸念されており、ギリシャ危機に続き、スペインの危機などが懸念されており、就中、資本主義の盟主アメリカ自体の更なる危機も取り沙汰されております。

その中で、東アジアでは中国に見られるように、高成長が何とか続いており、東アジアが世界の牽引車とも見られております。中国が、日本に代わってGDP世界第2位に上ってきましたが、日本は、なおもアパレル部材でも機械部品でも高度技術で世界に地歩を占めており、また韓国は自動車・家電・半導体などICT製品で世界に地歩を固めつつあります。

こうした東アジア諸国とアセアン諸国とがアジアの成長拠点となりつつあると見られますが、日米欧の三極構造から、東亜・米・欧州という構図へと発展しつつあると言えます。とくに、北東アジアと東南アジア、さらにインドなど南アジアの新しい成長の機運は、FTAやEPAの一層の進展を通じて東アジア全体の調和ある成長モデルを世界に提示しうるかに見えます。

このような現状のなかで、本学会が、広くアジアの研究者の参加と連携のもとに、アジア・モデルとしての企業経営の発展の展望を拓くべく、研究の深化と連携の強化に向かって進みつつあることは、新しいアジア企業経営の課題を析出するために大いに役割を果たすものと期待されています。

こうしたアジア情勢の展望のもとで、今回、アジア経営学会が、北方アジアの成長拠点たる北海道・札幌で開催されますことは、太平洋の西端の弧としての日本から、ユーラシアの東の弧、東アジア地中海の東の弧として、日本がいかなる発展をなしうるかを語り合う場となることを予想させてくれます。

今回、札幌大学が、何がしかの貢献をできると期待して開催校をお引き受けできたことは、漸く開学40年を超えて不惑の年齢となった大学として、大変に名誉なことであります。本学が、今日の気候変動の危機が感じられる中、食糧生産の中心となりつつある北海道に根付く高等教育研究機関として、さらなる成長の機会を与えて頂きましたことに、深く感謝申し上げたいと存じます。